

【佳作】

「ジョバンニの島」をみて

上富良野町立上富良野中学校
2年 宮川 千優

私は、北方領土問題について考えるために、「ジョバンニの島」という映画を見ました。

この物語は、第二次世界大戦終戦後の色丹島が舞台です。終戦後、島にソ連の艦隊が上陸します。ソ連との共同生活の中で、純平と寛太はソ連軍人の娘ターニャと仲良くなりますが、島を追い出されることとなります。そして二人は、別の収容所にいる父に、叔父と一緒に会いに行くという物語です。

私はこの物語で印象に残った場面が二つあります。

一つ目は、ロシアの子供たちと日本の子供たちがお互いの国の歌を歌ったり、一緒に遊んだりしていた場面です。お互いの国の歌を歌うということは、両国ともお互いを受け入れていたんだと思います。私は今までロシア人と日本人は敵対していたと思っていたので、このように仲良くしていたことに驚きました。

二つ目は、純平と寛太が父に会いに行った場面です。収容所を出て行ったらいつ殺されるかわからないのに、それでも父に会いに行くという、二人の強さをとても感じました。このように離れ離れになった家族がたくさんいたと思うと、とても胸が苦しくなりました。

私は、この映画をみて、北方領土問題について深く考えさせられました。

かつて、島民は、ロシアによって苦しい思いをしてきたと思います。家を奪われて馬小屋に住んだり、島を追い出されたり、収容所でご飯を少ししか与えられなかったりと、辛い日々を過ごしたはずですが、しかし、北方領土の返還を求めるとき、ロシアに対して同じようなことをしてはいけないと思いました。なぜなら、今日本が北方領土からロシア人を追い出したら、かつて日本がされたことと同じことだからです。私たち日本人は、その痛み、苦しみ、辛さを知っていると思います。だからこそ、同じ道をロシアに歩かせてはいけないと思います。ですので私は、「返還」だけではなく「共存」していったら良いと考えました。昔は、純平やターニャ達のように仲良くしていたはずですが、ならば、今からまた、交友関係を築けば良いと思いました。昔は両国ともお互いを受け入れていたのだから、きっと今も共存していけると思います。

この問題に関わる中で私自身ができることは何か。私は、この痛み、苦しみ、辛さを受け止めて理解し、次につなげていくことだと思います。元島民の経験者の方はもう高齢者です。私たちが受け継ぎ、これから先も忘れないことが大切だと思います。だから私も、この映画でみた北方領土問題の重みを理解して、北方領土返還要求運動に少しでも貢献できるようになりたいです。また、北方領土が返還され、ロシアと共存していくことが実現されるように、今回感じた重みをこれから先も忘れずに生きていこうと思います。一日でも早く北方領土が返還されることを願います。